

ぐんぐん 23↑↑

R5.9.4

第2号

～2学期始まりました！「心機一転」、はりきっていきましょう～



晩夏の候、ますますご盛栄のことと思います。28日（月）までの夏休みはいかがお過ごしでしたでしょうか。きっと楽しく充実した夏休みになったのではないかと思います。子ども達にはこれからたくさん夏休みの話を聞いていこうかと楽しみにしています。…とは言っても、いつまでも夏休み気分ではいられません。新学期も始まり、5日が経ちました。「**早寝・早起き・朝ご飯**」を意識して、生活リズムを整えなくてははいけません。

新しい学期のスタートというものは、気のゆるみからか道具忘れや遅刻が多くなる時期でもあります。生活リズムも気を付けながら、あわせて「**道具や持ち物の確認(記名や補充)**」と声かけもお願いします。生活面が整うと学習面も集中することができ、全体的に良いスタートがきれ、学習にも伸びが見られます。2学期が始まってぼぼ～としたままで、だらだらしていたのでは、宿題や道具の忘れ物は多くなり、学習は思うように進まず、内容は頭に残らない。体もだるさが残り体調を崩して学校を休んでしまう…なんて悪循環が起ってしまいます。ですから、**この始まりの10日間は2学期に向けての勝負の時期**なのです！

2学期は運動会に始まり、バス旅行や親子ふれあい活動など行事が多く、学習面も生活面でもいろんな面で成長が期待できる時期です。保護者の皆様には、本校の教育活動、家庭での学習活動にご協力ご理解いただき、ありがとうございます。2学期もよろしくお願いします。

9/1(金)は「9月のノーテレビゲームスマホデー」でした。夏休みが明けてから2学期へとつなげる大切な時期です。このチェックも有効に活用して、学習リズム生活リズムを整えましょう。カード記入よろしくお願いします。また、親子読書も楽しんで取り組んでいただきたいです。

◇◇有意義に使えましたか、夏休み？～算数の復習～◇◇

夏休みは楽しい時間が盛りだくさんだったと思いますが、同様に、夏休みの宿題を活用するなどして、1学期までの学習内容（前の学年の内容も含む）を振り返るにも有効な時間でもありました。ある教育関係のデータで、「**算数の学力差は夏休み明けに出やすい**」という記事がありました（HugKum8/7 付け）。夏休みを使って学習・復習を効果的に行っている子とそうでない子では、その後に開きが出るということです。とても興味深い内容ですね。一体どうしてでしょう？

その理由の1つは、算数という学習が「積み上げ式」の教科であるからです。後で一気に学習するよりも、こつこつと学習機会を積み上げていく方が身に付きやすい特性があります。**算数ではどの学年であってもそれまでの計算の基礎がなければ、その時の学習の理解が滞ってしまいますし、基礎的な力が身に付いてこそ、次のレベルの内容の理解ができるのです。**子ども達が好きなゲームで例えると、算数はRPG（ロールプレイングゲーム）のようなものです。RPGゲームとは、経験値を積み重ねてレベルを上げていき、そのレベルに合う装備をしてそのステージの敵を倒していくことを繰り返していくゲームです。算数も同じような特質があり、低学年でたし算・ひき算・かけ算・わり算の基本を学び、そして学年が上がるにつれ四則（ $+$ ・ $-$ ・ \times ・ \div ）混

合計算や文章問題のような応用問題を解いていきます。つまり、算数は理解できていない内容があると、その先に進むことが非常に困難になってしまう教科なのです。

そこで必要になることが、ゲームで言う「経験値上げ(レベル上げ)」にあたります。これを算数に当てはめると、「経験値上げ(レベル上げ) = 計算練習や基礎問題の徹底」でしょうか。夏休みの宿題にあった「夏にチャレンジ」などはまさにこれにあたり、うってつけの課題でした。練習にもなりますし、できていない問題があれば、それは復習をする部分を見つけたことと同じで、苦手克服もしやすくなります。「復習」という意味では、いい点数を取るよりも「理解している内容と理解していない内容を洗い出して対応すること」の方が大切なのです。「できなかった問題 = 理解していない内容」なので、その部分をきちんとやり直すこと、さらにはその内容につながる前の学年の内容に戻って復習することで理想的な復習になります。根本から苦手をつぶすことで、初めて復習の意味があるのです。そこで上手な「復習」のポイントを3つ!

①短時間でも毎日繰り返しやるべし!...学習と学習の間隔があくと、内容を忘れてしまいがちです。

②つながりをきらないため週末も学習し、学習リズムを保つべし!...毎日少しでもすることで癖にしよう。

③毎日の勉強時間は30分を目安にするべし!(できれば「学年×15分」で考えてみる)
...毎日でも10分程度では身に付きません。30分を基本に学年に応じて10分単位で増減させましょう。

どんな学習であっても、子ども達だけでは成り立ちません。学校では私たち教員ががんばります。ご家庭での学習ではおうちの方が頼りです。子ども達が学習(宿題)をしている場面では、ぜひともテレビやスマホは一旦置き、読書や近くにいていただくなどして、何か子どもから質問があった時には、その場で対応していただくと効果的です。「鉄は熱いうちに打て」です。

◇◇諸富北小の「立腰(りつよう)」◇◇

諸富北小学校では、学習に向かうための「構え」を作るために「立腰」に取り組んでいます。そもそも立腰とは、あいさつ時のかけ声で自分の腰骨を立てることを言います。これを行うことにより、活動に対して「自分でやろうとする力(意欲)」、「一生懸命にする力(集中力)」、「粘り強く続ける力(持続力)」、「切り替えて取り組む力(実践力)」を育てます。福岡県の「仁愛保育園」という園で取り組まれていること広がっています。体の構えを立腰で整えることで心の中もシャキッと、より集中して活動にむかえるのです。

りつよう しせい
「立腰」の姿勢 ← 2021.11~

- ①足のうらをそろえて、ゆかにつける
- ②おしりを後ろにひき、腰骨をぐっと前に出す。
- ③むねをはり、かたの力をぬく。手はももに。
- ④おなかに力を入れ、あごを引く。
- ⑤軽く目をして、そのままの姿勢。→合図を待ちます。

あたま

あたまがはつきりして、一つのことを熱心にやることが出来る

かんがえて自分で決める力が、やる気が出てくる

からだ

食欲が出て、からだがいよふかくなる

内臓がよく働く

すぐれた行動がはやくとれる

こころ

自分から物事にとくめる

ねばり強くたえられる

集中力がつき、同じことをしていられる